

第9回全国少林寺拳法指導者研修会



第9回全国少林寺拳法指導者研修会（主催＝日本武道館、少林寺拳法連盟、後援＝スポーツ庁）が9月19日、特別講師1名、講師6名、助講師2名、参加者40名がオンライン会議システム（ZOOM）に参加して実施された。

本研修会は、武道授業において「生徒が主体的・対話的に取り組むには？」、「未経験でもできる効果的な授業とは？」、「ICTの活用方法は？」等、さまざまな授業方法を学び、授業力の向上を図るとともに、全国的な少林寺拳法指導者の養成と資質向上に資することを目的に行われた。

開講式では、川島一浩少林寺拳法連盟会長、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が挨拶を述べた。

開講式終了後、牧野英一特別講師による、学習指導要領解説「主体的・対話的で深い学び」の講義が行われた。講義では生徒たちに必要な資質・能力として、①学びに向かう力、人間性等（学んだことを社会に生かそうとする力）、②思考力、判断力、表現力等（未知の状況にも対応できる力）、③知識及び技能（実際の社会や生活で生きて働く力）を挙げ、社会に出てからも学んだことを生かせるような指導をするため、この三つの力を育む必要があると発言した。

上杉嘉紀講師の講義Ⅱ「少林寺拳法の授業の留意点」では、授業を受ける生徒がみな少林寺拳法に興味があるわけではないということを前提に、分かりやすい言葉を使った指導法や、運動量確保の工夫が紹介された。

続いて、安田智幸講師による講義Ⅲ「コーチングを活かした授業」では、少林寺拳法“を”教えるのではなく、少林寺拳法“で”教える「コーチング」を取り

入れた授業展開のほか、生徒が言いたいこと・伝えたいことを理解し、自己決定へと導く手法「傾聴」の説明がなされ、授業を通して相手を尊敬する気持ち、協調性、自信をつけさせる指導を行うよう説明された。

合田雅彦講師による講義Ⅳ「少林寺拳法のエッセンスの活用」では、少林寺拳法の技術を通して生徒自身の身体動作の可能性を広げ、生徒のやる気を引き出す工夫を考えながら指導してほしいと説明があった。

中島正樹講師による講義Ⅴ「短時間で効果的な授業」では、生徒にとっての少林寺拳法授業実施の目的が、必要感のあるものでなくてはならないと説明があった。これにより主体性が生まれ、生徒が自分から行動し、課題を解決するようになる。注意点として、教師は支援に徹し、教え込まないことが挙げられた。

小井寿史講師による講義Ⅵ「ICTの利活用」では、ICTを活用して指導と評価を一体化し、生徒と教師が評価基準を共有する必要があると説明があった。また、課題は何か、解決策は何か、すべきことは何か、ということを生徒自身に考えさせてから実行させ、何に対して積極的に取り組んだかを説明させることで新学習指導要領の「思考力・判断力・表現力」が評価できると紹介された。

高坂正治講師による講義Ⅶ「まとめ」では、まず生徒の事態把握、次に授業でどのような力を身につけてもらいたいのか、その上で教材として少林寺拳法を用い、面白そう、やってみたいと思うような授業づくりをすることが重要であると述べた。

すべての講義が終了した後、閉講式では高坂講師の講師講評、篠寄浩之日本武道館振興部副参事兼普及課長の主催者挨拶があり、全日程が終了した。